

# 盛岡城御台所跡の調査

\* \* \* \* \* 盛岡市遺跡の学び館 \* \*

## 1. 史跡盛岡城跡の保存整備

盛岡城は慶長 2 年(1597)3 月、南部信直、利直によって築城が始められ、寛永 10 年(1633)5 月南部重直の入城から明治維新まで、盛岡藩主南部氏の居城でした。明治 7 年には廃城となりましたが、明治 39 年に岩手公園として整備され、昭和 12 年に国史跡に指定されました。昭和 59 年(1984)以後、盛岡市では史跡盛岡城跡の保存整備として、石垣修復工事と発掘調査を継続しております。今回の発掘調査は史跡保存整備に備えて、御台所跡の内容確認調査として実施しております。調査期間は平成 28 年 11 月 2 日から 12 月 9 日(予定)まで。

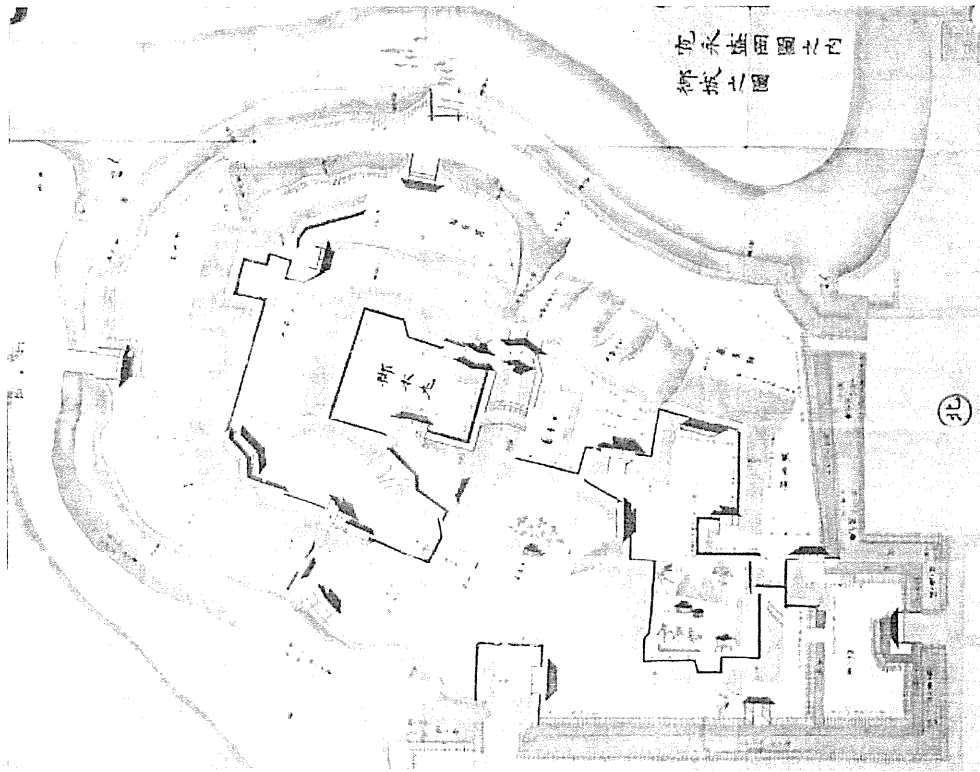
## 2. 盛岡城の変遷

- 1 期(慶長 2 年:1597~) 不來方城を大改修し盛岡城とする。本丸、二ノ丸などの中心部には石垣構築。腰曲輪以下は石垣構築されず土塁、柵をめぐらす。城内に瓦葺き建物あり。
- 2 期(元和 3 年:1617~) 城の大改修。本丸石垣の拡張、三ノ丸と腰曲輪に石垣構築。寛永 13 年(1636)9 月に本丸に落雷あり本丸の大半を焼失。2 期までは城の西側を北上川が流れ、ここに石垣はなく、崖になっていた(寛永盛岡城図)。
- 3 期(寛文 8 年:1668~) 腰曲輪西側から二ノ丸西側を石垣とする。北上川の切替え工事。本丸が再建され赤瓦が使用される。腰曲輪に窪地(明和三年書上げ盛岡城図)。
- 4 期(宝永元年:1704~) 城内の石垣損傷箇所の積みなおし、腰曲輪、二ノ丸にハバキ石 垣構築。腰曲輪窪地の縮小。
- 5 期(1700 年代後半~明治 7 年:1874) 腰曲輪埋め立て。

## 3. 発掘調査概要

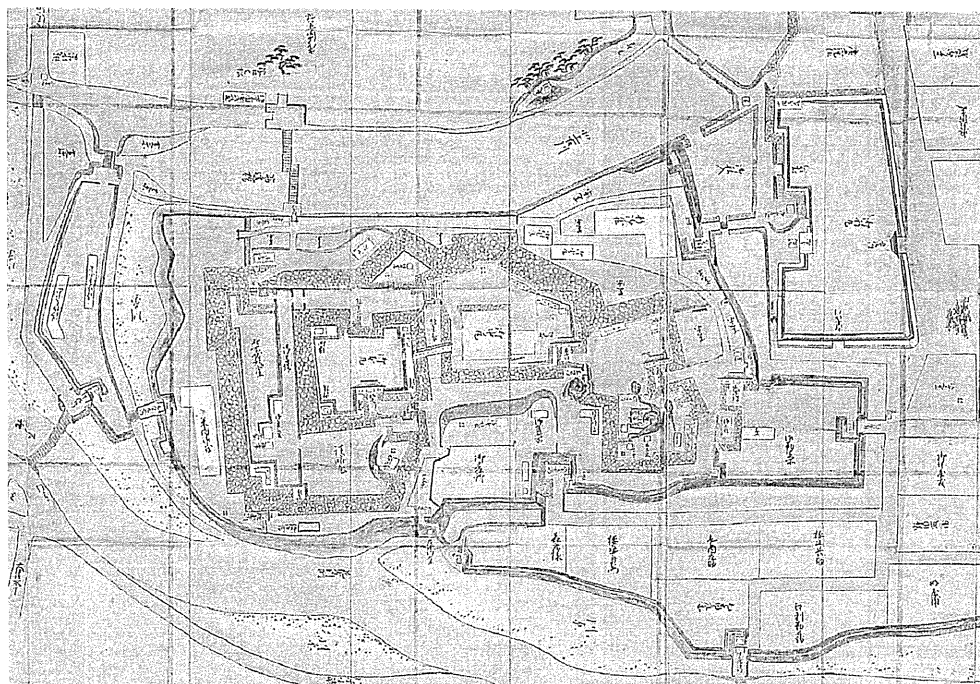
盛岡城二ノ丸東側にあります。御台所とは盛岡藩の財政を司る役所ですが、どのような建物や施設が存在したのか、詳しいことは判っておりません。今回は御台所の東側(A 地区)、南西側(B 地区)、南側(C 地区)、西側(D 地区)、北西側(E 地区)の 5 地点を発掘調査しております。

A 地区は内堀の鶴ヶ池に面しており、南東部には堀(鶴ヶ池)に沿った土塁と柵が確認されました。柵から 15m 西側には、御台所の礎石建物の東側部分が確認されました。A~D の大形の礎石と、ア~エの小型の礎石が同一線上に確認されています。大形礎石の南側礎石は抜き取られています(①~⑥の抜き取り穴)。大形の礎石は 6 尺 5 寸(約 1.97m)~7 尺(約 2.12m) 間隔、小型の礎石は 6 尺(約 1.818m) 間隔で、ア、イの礎石は大形礎石を抜き取



寛永盛岡城図（盛岡城2期）

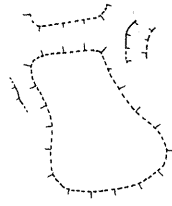
（もりおか歴史文化館）



明和三年盛岡城図（盛岡城3期）

（もりおか歴史文化館）

※この絵図は明和3年（1766）に下斗米小四郎が書上げた絵図面であるが、外曲輪家臣屋敷の家臣名から元禄16年（1703）の状況を示す絵図面といわれている。城内も腰曲輪の窪地が明記されていることや、二ノ丸東と腰曲輪南にある4期のハバキ石垣が描かれていないことも、元禄ごろの内容みても矛盾は無い。



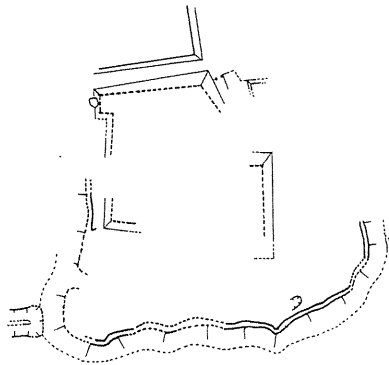
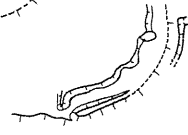
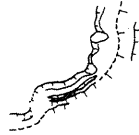
不来方城 1 期



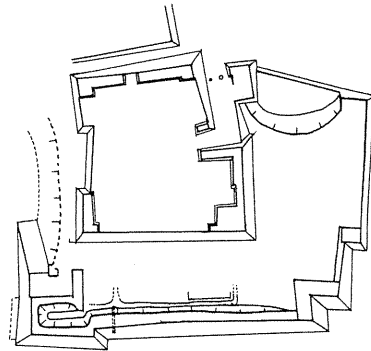
不来方城 2 a 期



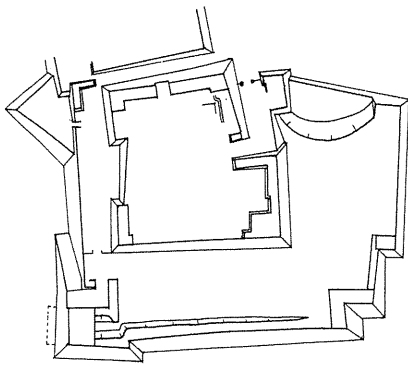
不来方城 2 b 期



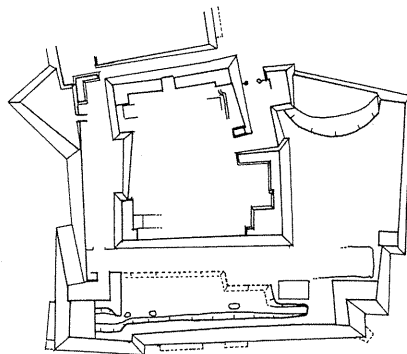
盛岡城 1 期



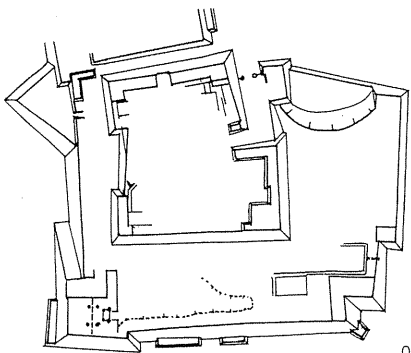
盛岡城 2 期



盛岡城 3 期



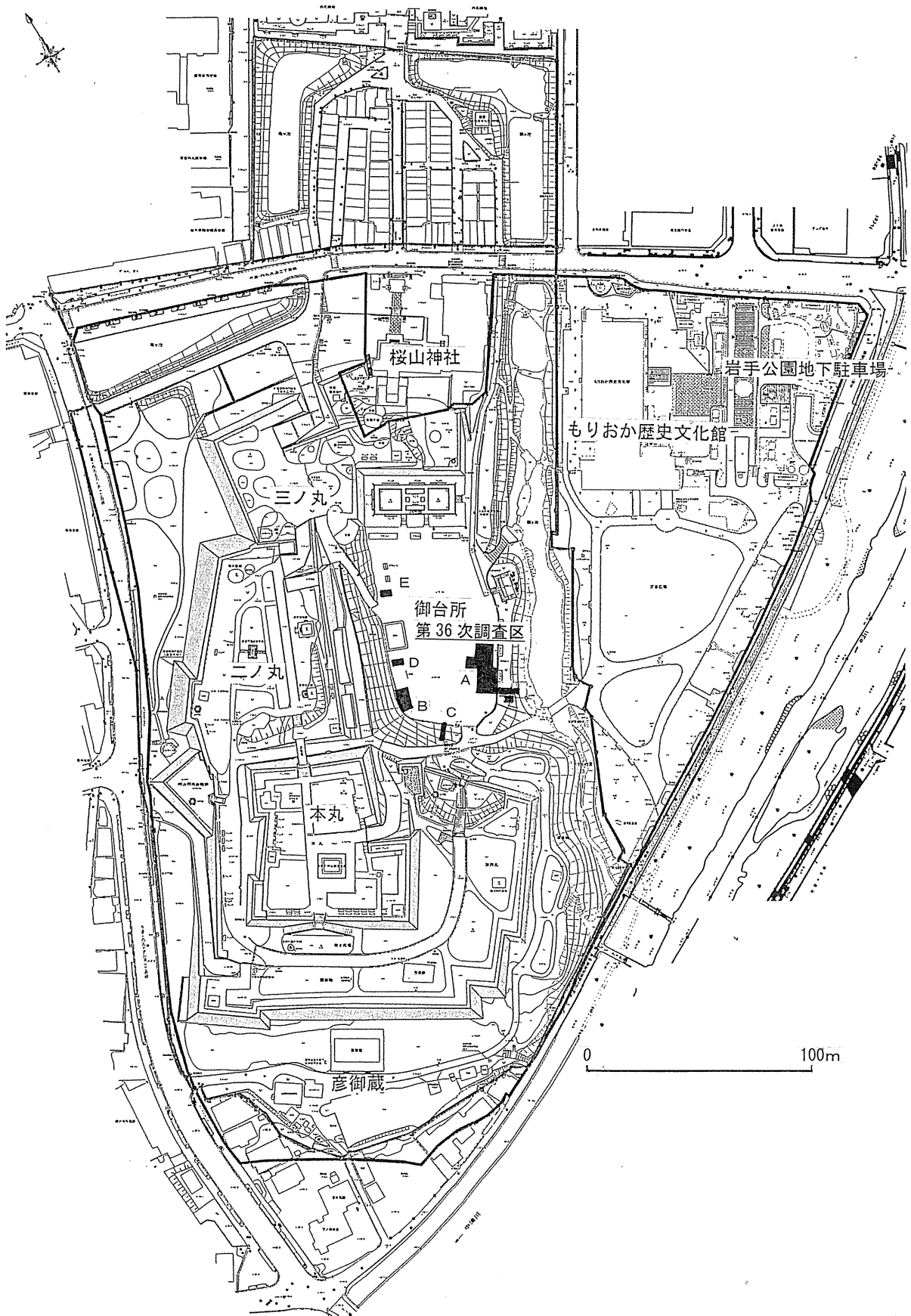
盛岡城 4 期



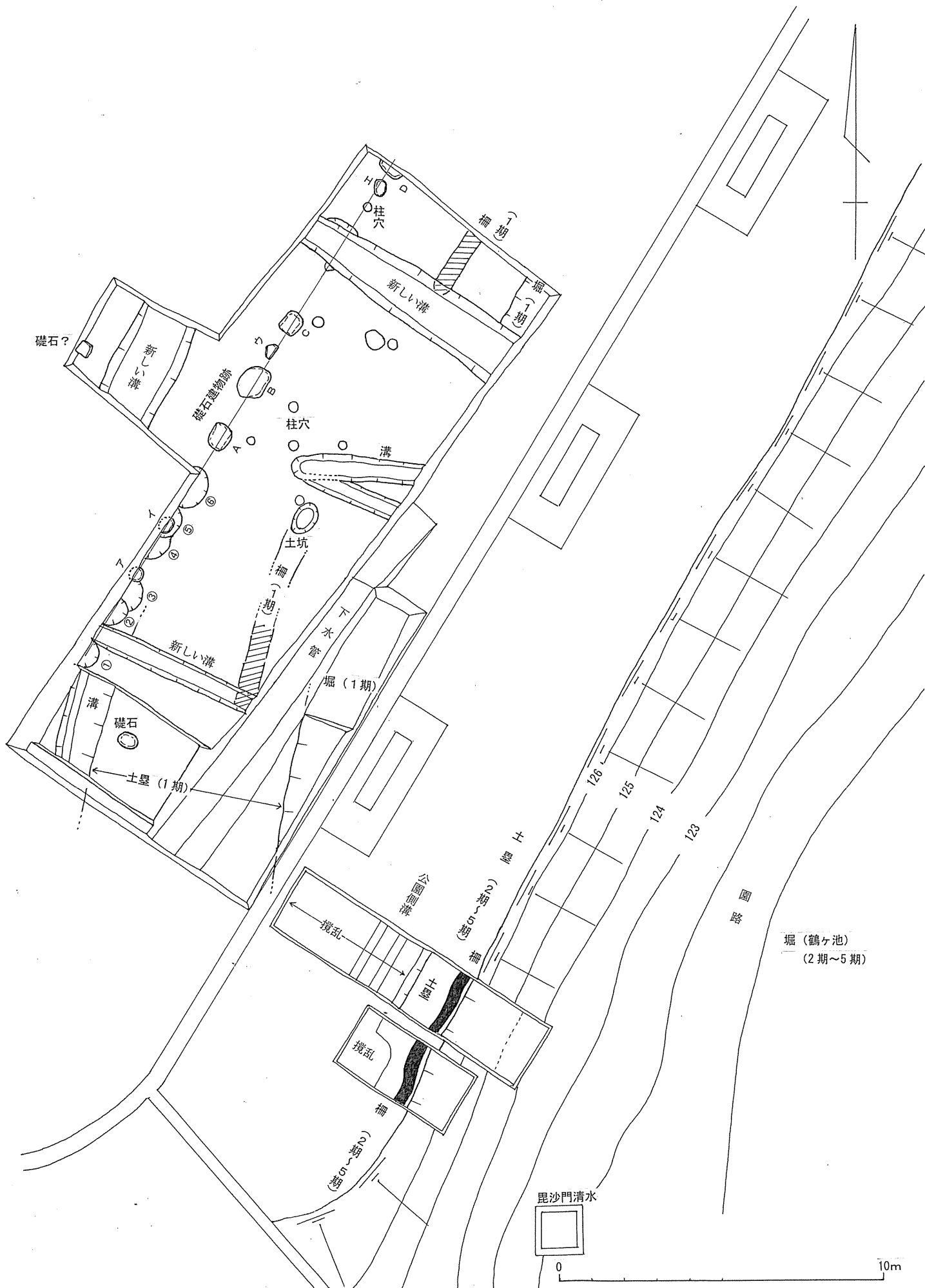
盛岡城 5 期

0 40m

本丸、腰曲輪遺構変遷



史跡盛岡城跡



史跡盛岡城跡第 36 次発掘調査 (A 地区)

った場所に設置されていることから、比較的新しい時期の建物です。建物の西側を確認するために調査区を拡げましたが、この礎石列は明治以後の溝によって失われておりました。礎石建物の南側は明治以後に大きく掘り下げられておりました。ここを理用して下層の遺構を探したところ、盛岡城 1 期の土塁と堀の一部を確認しました。土塁の西側には溝があり、ここから 1 期の瓦が出土しております。1 期の土塁と 2 期以後の土塁は方向が異なり、自然地形に添ったプランから直線的なプランへと造り替えられたことが判りました。

西側の B 地区から E 地区のうち、B 地区では 3 個の礎石と焼土や炭化物主体の土層が確認されております。焼土と炭化物の土層は D 地区でも一部確認されています。

#### 4. まとめ

これまで詳細がわからなかった御台所跡の礎石建物跡が今回の調査で初めて確認されました。一部分の確認であり、建物の全体像を把握するためには、調査範囲を拡げる必要があります。この礎石建物は盛岡城 2 期以後の建物で、建物東側の堀（鶴ヶ池）に面した土塁には、2 期以後の絵図に見られる柵の跡も確認されています。また礎石建物跡の下層には、盛岡城 1 期の土塁と柵、堀が確認されました。これにより、盛岡城 1 期の堀と土塁は自然地形に近いプランで造られていたものが、2 期ではより直線的な城のプランへと変遷していることが判明しました。